

※学級の児童の実態や単元の特性に応じて、ここに示している手立てから必要と思われるものを選び、適宜応用しながら授業改善にお役立てください。

※同系統の手立ては、同じアルファベットで示し、より発展的と考えられる手立てについて、ダッシュ（「'」）を付けています。

※本表は、研究を進める中で、随時更新しているものです。

手立て一覧表

	A（学習を見通す）	B（自ら考える）	C（他者と対話する）	D（学習を振り返る）
単 元 前	<p>【年間を通して講じる手立て】</p> <p>a 語彙を豊かにするための取組を日常的かつ継続的に取り入れることで、児童の思考を深めたり、活性化させたりする。</p> <p>b 読書の機会を多く設定することで、多様な作者や筆者の考えに触れさせ、児童の思考を深めたり、活性化させたりする。</p>			
	<p>【単元に応じて講じる手立て】</p> <p>c 当該単元に関わる児童のレディネスを把握することで、指導上の留意点を明らかにする。</p> <p>d 学校行事や地域行事、他教科の年間指導計画と照合しながら単元配列を入れ換えることで、当該単元における指導事項を効果的に身に付けさせる。</p> <p>e 当該単元に関わる基礎的な知識や関連する話題について、事前に児童へさりげなく提供することで、レディネスを調整する。</p>			
一 次 （ つ か む）	<p>f 事前にリサーチした、児童の身近な話題や興味を踏まえて言語活動を設定することで、意欲を喚起する。</p> <p>k' 学習課題で、何をどのようにすれば、どのような力が身に付くのかを児童と共通理解しておくことで、学習への目的意識や必要性を実感させる。</p> <p>g 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールやそこまでのプロセスのイメージをつかませる。</p> <p>h 言語活動のゴールの具体例を示すことで、児童の「あなりたい」「こうしたい」という願いや思いを存分に引き出す。</p> <p>h' 言語活動のゴールの具体例を提示する際、その内容を工夫することで、児童の課題意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による範例 ・児童による範例 ・教師による範例と改善の余地が残る例の対比 ・児童の実態に即した例と範例の対比 	<p>k 児童間の認識のずれや問いを洗い出すことで、学習課題を考えさせる。</p> <p>h' 言語活動のゴールの具体例を提示する際、その内容を工夫することで、児童の課題意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による範例 ・児童による範例 ・教師による範例と改善の余地が残る例の対比 ・児童の実態に即した例と範例の対比 	<p>q 児童が考えを整理したり、書き出したりする時間を確保することで、円滑な話し合いを促す。</p> <p>q' 話し合いの中で、書き出した考えを比較して傍線等のチェックをさせることで、共通点や相違点を明らかにさせる。</p>	

	A (学習を見通す)	B (自ら考える)	C (他者と対話する)	D (学習を振り返る)
二次 (深める)	<p>i 児童の学習履歴や単元の特徴に応じて学習過程に軽重を付けることで、より有意義な学習となるようにする。</p> <p>j 到達基準を児童に示すことで、単元の途中でも児童に目的意識や意欲を持続させる。</p>	<p>l 児童による自己選択や自己決定の場を設けることで、課題の解決に向けて積極的に考えさせる。</p> <p>m 板書やワークシートを工夫することで、児童が学びの道筋や思考の過程をたどることができるようにする。</p> <p>n 他教科等で学んだことと関連付けて考えさせることで、多様な課題の解決方法に気付かせる。</p> <p>o 学習活動が停滞した際、児童の困り感を基に解決方法を話し合わせることで、自力解決を促す。</p> <p>p 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさや改善点に気付かせる。</p> <p>p' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。</p>	<p>q' 話し合いの中で、書き出した考えを比較して傍線等のチェックをさせることで、共通点や相違点を明らかにさせる。(再掲←C一次)</p> <p>r 学習場面に最適な対話形態を選択することで、児童の思考を促す。 ・児童間でのペア対話、グループ学習、ディベート等。 ・教職員、地域の人へのインタビュー等。 ・本や図鑑の活用</p> <p>s 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、話し合いの焦点化、活性化を図る。</p> <p>s' ICT機器を活用することで、話し合いの焦点化、活性化を図る。</p> <p>t 思考ツールを用いて考えを整理させることで、自他の考えを俯瞰して捉えさせる。</p> <p>o 学習活動が停滞した際、児童の困り感を基に解決方法を話し合わせることで、自力解決を促す。 (再掲←B二次)</p> <p>p 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさや改善点に気付かせる。(再掲←B二次)</p> <p>p' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。 (再掲←B二次)</p>	<p>v キーワードを与えて学習を振り返らせることで、できたことや分かったことの理由や根拠を考えさせる。</p> <p>w 本時の終わりに、次のような視点を適宜与えた上で振り返らせることで、次時の学習へ見通しを持たせる。 ・分かったこと ・できるようになったこと ・習得状況 ・参考になった友達の考え ・次の学習で取り組むべきこと、取り組みたいこと</p>
三次 (まとめる)			<p>u 互いのよさについて伝え合わせることで、学んだことを客観的に確認させるとともに、次の学習への意欲を喚起する。</p>	<p>w' 単元の終末で、学んだことの意義や改善点、自分の変容について振り返らせることで、成長を自覚させるとともに、次の学習につなげさせる。</p> <p>x 習得した知識及び技能、考え方等をカードやファイル等に蓄積させておくことで、次の学習でも活用できるようにさせておく。</p>
単元後	<p>y 習得した知識及び技能に関する自主学習の取組について他の児童に紹介し、広げる。</p> <p>z 習得した知識及び技能、考え方を、日常生活の中で活用し、役立てられる場を設定する。</p>			